（別添３）

【小鹿野町】

校務DX計画

## １.現状と課題

本町では、令和２年度に統合型校務支援システムを導入し、教職員の負担軽減および校務の効率化を図ってきた。

しかし、システムを閉域網で稼働させているため、校務におけるクラウドサービスの活用が限定的で、ＧＩＧＡスクール端末とのデータ連携も不可能であることが課題となっている。 学校と保護者との連絡については、一斉連絡、アンケート等一部オンライン化がされているものの、依然として紙でのやり取りが主流である。

また、令和６年度「ＧＩＧＡスクール構想の下での校務ＤＸ化チェックリストによる自己点検の結果」によると、本町はＦＡＸを原則廃止している学校が40%に留まっている。押印・署名については関係規程を整理して推進しているものの、徹底されていない状況である。

## ２.課題の解決に向けて

上記課題解消に向けて下記事項について取り組む

（１）校務支援システムの更改に向けた検討

令和９年度に予定している校務支援システムの更改に向け、校務系ネットワークシステム等の現状分析や、クラウド化をはじめとした望ましい校務の在り方に関する検討を令和７年度から実施する。

（２）不合理な手入力作業の一掃

ネットワークシステムの更改も含めた、校務系ネットワークデータと学習系ネットワークデータの同期等により、不合理な手入力作業をなくす体制について検討する。

（３）連絡ツールの包括的な検討

学校と保護者の連絡ツール（欠席連絡、学校だより、アンケート等）について、既にオンライン化がされているものを含め既存の手段の見直しを行い、包括的かつ効率的な運用ができるよう検討を進める。

（４）ＦＡＸの原則廃止の推進

全てのＦＡＸ送受信について精査を行い、電子メール等代替手段への移行を推進することで、ＦＡＸの原則廃止に取り組む。

（５）押印・署名の原則廃止の推進

各種参加・同意・承諾に関する書類、各種調査に関する書類等の押印・署名の必要性について精査を行い、押印・署名の原則廃止を推進する。